

(別紙5)

# 調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日	20 年11月 10日
調査実施の時間	開始 10 時00分 ～ 終了14時40分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム あじさい 福島県
-------------------	---------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>大野 恒夫</u>
	氏名 <u>熊谷 まゆみ</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>猪俣 妙子</u> ヒアリングを行った 1人

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0792610016
法人名	社会福祉法人 啓和会
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	福島県河沼郡湯川村大字浜崎字城東1589-1 0241-27-5811
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成20年11月10日

【情報提供票より】 (20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年4月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7 人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	人
常勤換算	6、3

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り
	階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要 (10月1日 現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	1	要介護2	1		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84.4 歳	最低 78 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団日新会 入澤病院. 医療法人福寿会 武田病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に立地し、広い敷地にた立つホームは、オープンキッチンを中心に広いリビング、居間と開放的な共有空間が作られている。職員の対応も良く、利用者はゆったりと過ごしており表情も穏やかである。
---

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価票を職員に配布して記入してもらい、管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) ホームの行事、活動等を報告し、委員から意見を出していただいている。個人情報扱い、ボランティアの受入等出された意見は運営に活かすよう努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等の意見はいつでも受け付けるようにしているが、これまで意見等は出されていない。家族会の設置を検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入している。地域の行事にお誘いを受けたりしているが、出来るだけ参加するよう努めている。

## 2. 調査報告書

主任調査員氏名 大野 恒夫 / 同行調査員氏名熊谷まゆみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設に当たって、法人内のグループホームで研修を実施し、地域密着型サービスの役割を全員で確認し、「住み慣れた地域で安心して暮らせるように」とする理念を作った。重要事項説明書等には明示されていない。	○	理念の玄関等への掲示と重要事項説明書等に明文化するようにしてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が笑顔であれば利用者も笑顔で居られるということで「笑顔」を介護目標として、日々サービスを提供している。	○	日々のサービス提供場面（言葉かけ、態度等）において、理念が反映されているか職員間で振り返る場を持つようにしてほしい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しているが、回覧板は回ってこない。地域の盆踊り等のお誘いを受けたりしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員に配布して記入してもらい、管理者がまとめた。	○	自己評価がまとまった時点で、職員で話し合い、事業所としての改善課題は何かをお互いに確認しあい、外部評価の結果と合わせて、改善に向けた取り組みを行ってほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月の開設以来、1回開催した。グループホームとは何か等を説明するとともに、行事、活動等を報告し、委員から意見を出してもらった。個人情報の扱い、ボランティアの受入等出された意見は運営に活かすように努めている。	○	ホームの課題を運営推進会議と相談しながら進めていくためにも定期的な開催に努めてほしい。
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、健康状態、心身の状況等を伝えている。医師からの指示、薬の変更等があった場合は、その都度報告している。日ごりの様子を撮った写真や預り金使用明細書（領収書も）を毎月送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで家族からの苦情、意見等は寄せられていない。家族会の設置を検討中である。	○	家族等は意見等を言い難いことを理解し、職員や事業所の側から積極的に意見等を引き出す努力や場面づくりをしてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2名の異動があったが利用者への影響は特に見られなかった。新入職員には利用者とのコミュニケーションを密にし、信頼関係を築くように指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回、定期的に法人内の研修会を実施している。外部研修については職員の段階に応じて声かけをしている。なるべく全員が参加出来るよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの定期的な勉強会に参加し、情報交換、交流を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでの暮らしの中で、利用者の得意なことを引き出すようにし、お互いに支えあって生活していることを感じてもらうように声かけ、場面づくりをしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情などから把握するようにしている。	○	日々の関わりの中で掴んだことの記録、共有化するためのルールづくりを検討してほしい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2ヶ月に1回、モニタリングを行い、現在の状況、効果を評価し、定期的な見直し、状態変化に応じた見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医としているが、特に希望がなければ協力医療機関としている。家族同行受診に当たっては、健康状態などの情報を提供し、医師に聞いてもらいたい点なども伝達している。受診結果の報告も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ必要性のある利用者がいないため取り組んでいない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所が対応しうる最大の支援方法は何かについて話し合いをしてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室に入る場合は声をかける、排泄、入浴介助に当たっては羞恥心に配慮する等、利用者一人ひとりのプライバシーや誇りを損ねないように注意している。個人情報などの記録物は事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝寝坊の利用者には特に起こすことはせず、朝食を部屋で取ってもらったり、散歩に行きたいという利用者には、すぐ職員が対応するなど利用者のその時の気持ちを尊重し、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、盛り付け、配膳、下膳など利用者のできる範囲で職員と一緒にしている。対面式のカウンターで職員と食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能である。利用者の希望やタイミングに合わせて声かけをし、支援している。これまでの生活習慣に合せて夜間入浴も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	一人ひとりの生活歴を活かし、暮らしの中で役割を果たしてもらっている(料理、草むしり等)利用者と相談しながらコンサートやお祭りなど外出の機会を多く持つようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	本人の気分や希望に応じて、散歩、買い物等に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出しそうな利用者には特に配慮しながら、見守り、所在確認を基本として日中は鍵をかけていない。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行っていないが、非常口付近には物を置かないなど避難口の確保に配慮している。	○	消防署の協力を得て避難訓練を実施してほしい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量、水分量をチェック表に記録し、支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者には、できるだけ共有空間で過ごしていただくように、オープンキッチンを中心に畳の間（二間）、リビングがレイアウトされており、明るく家庭的な空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い収納棚があり、全ての持ち物が収納できるようになっているため、居室はベッドだけという殺風景な感じとなっている。	○	使い慣れた馴染みのものや家族の写真等が置けるキャビネット等を配置するなど、自分の部屋らしさを感じられるような配慮をしてほしい。

※  は、重点項目。

### 3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム あじさい

記入担当者名 管理者 猪俣 妙子

#### 評価結果に対する事業所の意見

なし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。